

平成27年6月6日

平成27年総会踏査会(集)

熱田神宮元宮・氷上姉子神社と大高城跡・丸根砦跡・鷺津砦跡に行く

○ 日 程

13:00	J R 大高駅改札口集合
13:10	J R 大高駅発 (大高城址まで0.8 km)
13:25	大高城跡公園着 大高城跡 (丸根砦跡・鷺津砦跡を眺望)
13:50	大高城跡公園発 (氷上姉子神社まで1.0 km)
14:10	氷上姉子神社着 熱田神宮摂社氷上姉子神社、神明社、元宮
14:50	氷上姉子神社発 (丸根砦址まで1.5 km)
15:20	丸根砦跡着
15:35	丸根砦跡発 (鷺津砦公園まで0.8 km)
15:55	鷺津砦公園 (鷺津砦跡) 着
16:15	鷺津砦公園発 (J R 大高駅まで0.3 km)
16:25	J R 大高駅着

○ 氷上姉子（ひかみあねご）神社

熱田神宮摂社「氷上姉子神社」は、大高町火上山に鎮座する古社で、昔から「お氷上さん」と親しく呼ばれ、尾張氏の祖神として、地元はもとより、広く当地方一円の人々の限らない崇敬と信仰を集めている。

古代尾張の開拓神であった天火明命（アマホアカリノミコト）の子孫で、当時の尾張国造（ケノミヤツコ）として火上の地を本拠としていた乎止与命（ホヨノミコト）の館跡（現在の元宮の地）に、宮簀媛命（ミヤスヒメノミコト）を御祭神として仲哀天皇4年（195年）に創建された神社である。持統天皇4年（690年）に、火上山の麓の現在の地に遷座し、旧社地に元宮が鎮祭された。

御祭神の宮簀媛命は乎止与命の女（ムスメ）で、日本武尊が東国平定からの帰途、この地に留められた際に結婚。尊は休息する間もなく、近江国伊吹山に賊ありし聞かれ、その賊平定のため神剣を媛にあずけて、急ぎ彼の地に赴かれたが、病を得て伊勢国能褒野で亡くなった。

媛は、遺された神剣「草薙神剣（クサナギノミツルギ）」の靈威を畏まれ、床を設け、これに安置して奉仕に努めた。その後、熱田の地に社を建て、この地に神剣をお移し奉仕の生涯を捧げた。ひたすらに神剣奉斎の日々であり、その御生涯は、熱田神宮御創祀に連なる道を開かれたと云うことができる。

現在の本殿は、明治26年（1893年）に熱田神宮の別宮・八剣宮の本殿を移築したもので、戦災を免れた貴重な尾張造である。

「姉子」とは「夫のいない乙女」の意味で、日本武尊が東征の帰途に、宮簀媛命を偲んで詠んだ歌から付けられたと言われている。

○ 大高城跡

築城年代ははっきりしていないが、土岐頼康が尾張守であった南北朝期には池田頼忠が城主を務め、永正（1504～21年）のころ花井備中守が、天文・弘治（1532～58年）のころには、水野忠氏父子が居城していた。永禄3年（1560年）桶狭間の戦いの時、松平元康が守っていたが、今川義元の死後、三河に帰り廃城となった。

天文年間も引き続き水野氏が治めたが、織田信秀の支配下にあった。天文17年（1548年）、今川義元の命で野々山政兼がこの城を攻めたが、落とすことはできず政兼は戦死した。信秀の死後、息子の織田信長から離反した鳴海城主山口教継の調略で、大高城は沓掛城とともに今川方の手に落ちた。この脅威に対して信長は「丸根砦」「鷲津砦」を築き、大高城に圧力を加えた。永禄2年（1559年）朝比奈輝勝が義元の命を受け大高城の守りに入った。翌永禄3年（1560年）には、大高城の包囲を破りそのまま鵜殿長照が守備につき、5月18日夜には、大高城に松平元康が兵糧を届け、長照

に代わり元康が城の守備についた。やがて信長の攻撃による義元の死（桶狭間の戦い）を確認した元康は岡崎城に引き下がったため、大高城は再び織田家の領土となった。

その後まもなく廃城となったが、尾張藩家老の志水家が元和2年（1616年）に、ここに館を設けて代々住むようになった。この館も明治3年（1870年）に売却され、昭和13年（1938年）に国の史跡に指定された。

○ 丸根砦跡

大高城が今川義元の手には落ちたあと、織田信長が永禄2年（1559年）、義元との領土争いの前線として鷺津砦や善照寺砦とともに整備した砦の一つで、大高城の東側約800m、鳴海から延びる丘陵の先端に築かれた。

永禄3年（1560年）5月19日、桶狭間の戦いの前哨戦が行われ、佐久間盛重を将とする織田軍が立てこもったが、松平元康が鉄砲を用いて攻撃し、激戦の後、守備側は全滅したといわれている。その後、三河で独立した徳川家と織田家が同盟関係になったため存在感を失い、そのまま放棄された。

大高城跡・鷺津砦とともに昭和13年（1938年）に国の史跡に指定された。

○ 鷺津砦跡

大高城の北東約700mの丘陵上に築かれた砦で、大高城の今川勢を牽制するために織田信長によって永禄2年（1559年）造られた。丸根砦とともに大高城を頂点とするこの鷺津砦は、二等辺三角形の底辺の両端に位置している。また、大高と鳴海を結ぶ交通路を押さえる位置にあたる。

織田信秀の死後、信秀に従っていた鳴海城主山口教継が今川義元に寝返り、義元は大高城を手中にした。そこで信長は、鳴海城に対して丹下砦・善照寺砦・中島砦を築き、さらに大高城と鳴海城の間を遮断するために、丸根砦と鷺津砦を築いた。鷺津砦には守将として織田秀敏と飯尾定宗・尚清父子が置かれた。

永禄3年（1560年）5月19日早朝、尾張に侵攻した今川軍は鷺津砦と丸根砦に攻撃を開始した。その報せを受けた信長は清洲城から出陣したが、熱田神宮にさしかかった時には、すでに両砦は落城したらしく、煙が上がっていたという。攻撃したのは今川の重臣朝比奈泰能の軍勢であるとされている。その後、三河で独立した徳川家と織田家が同盟関係になったため存在感を失い、鷺津砦が再び使われることはなかった。

大高城跡・丸根砦とともに昭和13年（1938年）に国の史跡に指定され、周辺は鷺津砦公園として整備されている。



三連

Midori Ward Office
緑区役所

青山 (1) (2) (3) (4)

倉坂

大高緑地
Odaka Green Park

緑区
MIDORI-WARD

大高町

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高緑地

大高北小

大高南小

大高中

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高北小

大高南小

大高中

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高北小

大高南小

大高中

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高北小

大高南小

大高中

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高北小

大高南小

大高中

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高北小

大高南小

大高中

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小

大高小